

第19回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：2018年1月25日（木）14：15～17：00

2. 場所：学術総合センター 20階 講義室1

3. 出席者：

（委員）

小山 憲司	中央大学 文学部 教授
相原 雪乃	北海道大学附属図書館 管理課長
佐藤 初美	東北大学附属図書館 情報管理課長
米澤 誠	京都大学附属図書館 事務部長
粟谷 禎子	公立はこだて未来大学情報ライブラリー
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授
小野 亘	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
吉田 幸苗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（欠席）

近藤 茂生	立命館大学図書館 学術情報部 次長
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 教授

（陪席）

飯野 勝則	佛教大学図書館 専門員
三角 太郎	筑波大学 学術情報部 アカデミックサポート課長

（事務局）

片岡 真	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長(CiNii/新CAT 担当)
阪口 幸治	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長(CAT/ILL 担当)
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員(CAT/ILL 担当)

<配付資料>

委員名簿

1. 第 18 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. これからの学術情報システムに関する意見交換会開催報告
- 2-2. これからの学術情報システムに関する意見交換会(アンケート結果)
- 2-3. これからの学術情報システムに関する意見交換会(事前・会場質問及び回答の共有)
- 3-1. 電子リソースデータ共有作業部会(2017 年度活動報告)
- 3-2. 電子リソース管理システムの利用可能性の検証について(2017 年度最終報告)(案)
- 3-3. 電子リソースデータ共有作業部会(2018 年度活動計画)(案)
- 4-1. NACSIS-CAT 検討作業部会(2017 年度活動報告)
- 4-2. 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について(実施方針)」からの変更について
- 4-3. NACSIS-CAT 検討作業部会(2018 年度活動計画)(案)
5. これからの学術情報システムの在り方について(改訂版)(案)
6. 2018 年度以降の検討体制について
- 7-1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会規程」の改訂について
- 7-2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程(改訂案)
- 7-3. これからの学術情報システム構築検討委員会規程(新旧対照表)
- 8-1. 2017 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告
- 8-2-1. 2018 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画(案)
- 8-2-2. 2018 年度これからの学術情報システム構築検討委員会委員(案)

参考資料

- 1-1. これからの学術情報システムに関する意見交換会(Web サイト)
- 1-2. これからの学術情報システムに関する意見交換会：アンケートサマリ
2. 電子リソース管理業務の効率化に向けたシステム検証について(協力依頼)
3. これからの学術情報システムの在り方について

4. 議事：

審議に先立ち、事務局から第 19 回委員会より委員会資料の年次表記を和暦から西暦に変更する旨の報告があった。

(1) 前回 (第 18 回) 委員会の議事要旨確認

メール審議を経て 12/8 付で確定したため、委員会内での確認は割愛した。

(2) 「これからの学術情報システムに関する意見交換会」開催報告 (報告)

事務局より、資料 2-1～2-3 に基づいて報告があった。資料 2-3 については、別途メール審議の上、参考資料 1-1 のとおり委員会 Web サイトで公開することとなった。

(3) 電子リソースデータ共有作業部会の活動について

飯野電子リソースデータ共有作業部会主査より、資料 3-1～3-3 について、報告及び説明があった。資料 3-2 については、「5.検証結果の詳細」に記載した「別紙：Alma 機能検証結果（全体表）」と「参考資料：Alma 機能検証結果（個別機能）」を含めた最終版を年度内に作成し、メール審議の上、委員会 Web サイトで公開することとなった。また、審議の結果、来年度の活動計画について承認された。

質疑・意見交換は次のとおりである。

[Alma の検証報告について]

- 資料 3-2 の「4.検証結果の要点」のうち、(ア)の JUSTICE 事務局の作業によるメリットの(2)の部分にしか「非システム利用館においても」と出てこない。Alma を利用した改善案は、非システム利用館にはこの点しかメリットがないのか。
 - API を活用することで、非システム・非 Alma 利用館でも改善が見込まれる。記載内容については最終版までに修正を検討したい。
 - 報告書の最終版では、非システム利用館に対するメリットを強調して作成いただくのがよいのではないか。
 - ☆ その方向で検討したい。
- 今回の検証報告書は Alma を ERM として使った場合、ということによいのか。
 - 認識されているとおりである。
- 資料 3-1 の今年度活動報告に「JUSTICE 事務局と意見交換」という項目があったが、JUSTICE で Alma の導入を検討する、という話題にはなっていないのか。
 - 1/29(月)の JUSTICE 運営委員会で資料 3-2 について報告を予定しており、その後 JUSTICE で検討いただくことになっている。
- 具体的にどのような導入モデルがありうるのか。
 - JUSTICE（事務局）が導入することで、JUSTICE 事務局が管理している提案書内容やタイトルリストの提供及び会員館の入手の利便性を向上させる、というのが考えられる最初のステップである。それに対して、個別に導入した会員館がシステム連携して利用するモデルと、非利用館が API 等でデータを取得して利用するモデルが次のステップとして出てくるのではないか。
 - 選択するモデルによって、各機関のコストは変わる、という理解でよいか。
 - その認識である。

[ERDB-JP について]

- ERDB-JP に他のサービスから追加されたデータは、元サービスと ERDB-JP の両方に重複して本文コンテンツを持っている、ということか。
 - ERDB-JP には本文コンテンツはなく、リンクリゾルバ等で活用可能なメタデータを収集しているため、コンテンツの重複はない。

- ERDB-JP のパートナー拡大について、JAIRO Cloud ユーザーに関する案がいくつか挙がっているが、JPCOAR で検討していただくことはできないのか。
 - 当委員会から JPCOAR に依頼する方向で、内容について来年度の委員会で詳細を議論する、ということにしたい。

[国際連携について]

- (ウ)の「国際連携の推進」に記載されている② OCLC の中央書誌システム (CBS) に関する調査は、利用機関への聞き取り調査だけでなく、システム検証も含めて検討しているのか。
 - OCLC とも調整し、可能な範囲で取り組みたいと考えている。

(4) NACSIS-CAT 検討作業部会の活動について

三角 NACSIS-CAT 検討作業部会主査より、資料 4-1～4-3 について報告及び説明があった。審議の結果、資料 4-2 は原案のとおり承認された。来年度の活動については、意見交換の内容を反映した上で、進めることとなった。

質疑・意見交換は次のとおりである。

- 資料 4-1 の「NCR、RDA への対応」について、資料 4-3 の活動計画には記載がないが、2019 年度以降に検討するということか。
 - 資料 4-1 に記載した課題を 2018 年度に取り組むのは難しいと感じている。現在の作業部会の体制で検討すべきか、という点も含めて本委員会に諮りたい。
 - NCR、RDA に関しては、対応方針次第で大きなシステム変更を伴うのであれば、検討を早めに開始した方がよいのではないかと。
 - ◇ 少なくとも 2020 年度の時点で結論が出ている状態、というのは難しいと感じている。2020 年度に向けた検討とは別のフェーズにしたい。
 - 関連指示子への対応は、NACSIS-CAT にとって大きな見直しになると考えているが、2020 年度以降の検討になるのではないかと。
 - ◇ 目録業務の現場ではすでに USMARC 等が RDA 対応しており、近い内に JPMARC も 2021 年 1 月からは新 NCR への対応を予定している。具体的な検討は NDL の動きを見ながらでも良いが、その後の BIBFRAME 等の検討も考慮すると、検討スケジュールをあらかじめ計画に入れていただいた方がよいのではないかと。検討のための人的リソースが足りないのであれば、別途考える必要がある。
- 資料 4-1 の今後の課題として記載された部分は資料 4-3 の活動計画に入れていただき、検討体制については、委員会及び NACSIS-CAT 検討作業部会の課題である旨を記載する方向で修正いただきたい。
 - 承知した。

- 資料 4-3 の「1.移行日程の確定と通知」について、上位委員会・会議等での審議が必要ではないか。
 - 通知を出すことについては、2月に予定されている大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議に諮り、実際の通知文書の内容や日程については NII で検討する、ということによいのではないか。
 - その方向で検討する。

(5) これからの学術情報システムの在り方について（審議）

委員長より、資料 5 に基づいて内容の説明があった。審議の結果、今回議論された「グランドデザイン」について具体的なたたき台を年度内に準備し、次回委員会までにメール審議により検討を進めることとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

- 作業部会の検討結果を確認しつつ、新たな課題を設定するだけでなく、委員会自体が何かを示せるようにした方がよいのではないか。
 - 内容的・量的に作業部会の範囲を超える課題があるのであれば、新たな作業部会を設置するのではなく、委員会で議論するのも手立ての一つである。
- 今後目指すべき学術情報基盤の在り方（グランドデザイン）をどのように描くかという点とコミュニティに関する検討は、作業部会ではなく委員会の課題だと認識している。
 - 委員会でグランドデザインを描いた上で、次の段階としてワークフローの検討に議論を落とし込んでいった方がよいのではないか。
 - ◇ ワークフローというキーワードを使用してしまうと、各機関が業務手順の統一化をイメージするかもしれない。電子情報資源・印刷体問わず、各機関で管理しているデータをどのように集めてエンドユーザーに統合的に見せるのか、ということが課題であり、コスト面からも、なるべく現在の業務担当者の動きを変えずに実現する方法を検討することが重要である。
 - 「グランドデザイン」の中身は、統合的発見環境に向かって各機関がどういった体制でどのような業務をしていけばよいのか、といった将来像をイメージしている。
 - コミュニティに関する課題もグランドデザインのたたき台に盛り込みたい。

(6) 2018 年度以降の検討体制について（審議）

委員長より、資料 6 に基づいて内容の説明があった。審議の結果、来年度当初は検討体制を変更せず、NACSIS-CAT に関する検討体制については、NACSIS-CAT 検討作業部会が次回委員会で提案することとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

- 設置済みの 2 つの作業部会は、既存の活動計画に盛り込まれた検討内容が膨大であるため、新たな課題の検討にあたっては、別途何らかの検討グループを設置することも必要ではないか。
- 電子情報資源と印刷体の一体的な運用に関する検討は委員会の課題とするが、例えば LSP の利用によって実現できる事項等については、電子リソースデータ共有作業部会から情報提供いただくイメージでいる。
- これまで NACSIS-CAT 検討作業部会の所掌業務に NACSIS-ILL が含まれておらず、検討の際に難しさを感じている。その点も本委員会で検討いただきたい。
 - 所掌業務に追加する方向で検討する。
- NACSIS-CAT に関する 2020 年度以降の課題については、NACSIS-CAT 検討作業部会と事務局で相談していただき、まずは課題とそれに対する人的リソースの不足部分を洗い出し、活動計画を整理した上で来年度第 1 回委員会に検討体制について提案していただきたい。

(7) 委員会規程の改訂について（審議）

事務局より、資料 7-1～7-3 に基づいて内容の説明があった。審議の結果、原案のとおり改訂が承認された。

(8) 委員会の 2017 年度活動報告と 2018 年度活動計画について（審議）

委員長より、資料 8-1～8-2-2 に基づいて内容の説明があった。審議の結果、活動報告と活動計画について承認された。次年度委員については異動等で交代があった場合は、交代する委員の役職の後任を 4 月時点の委員候補とすることとした。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

- 今年度全国 5 箇所で開催した意見交換会について、来年度も実施を検討した方がよいのではないか。
 - 来年度は NACSIS-CAT に関する説明会に注力し、委員会としては図書館総合展等で検討状況を伝えていければと考えている。

以上